

H20年度実施計画(案)

資料-2

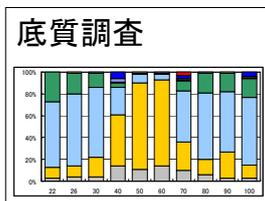
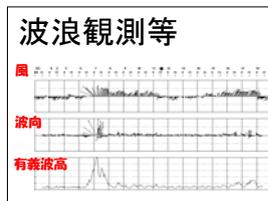


公開モニタリング調査の状況

1. H20年度に向けた「より良い工夫」

(1) 委員会、勉強会での意見への対応

- ◎ 台風などのイベントに対応した調査が必要
- ⇒ H19年度のように必要に応じて緊急調査を実施する



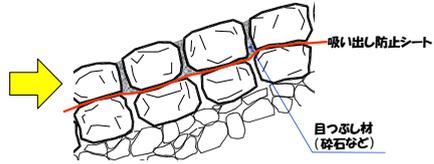
生物調査

台風9号通過後 H19年9月21日	
高潮帯	5種: タネビガイ、マガキ、イワシツボ、シロシツボ、好シマツボ
中潮帯	12種: イボニシ、マガキ、イワシツボ、シロシツボ、好シマツボ、ヨドカリツボ、キーロツボ、スジエビ属、ヤドカリ類、カサガイガニ、ヒライソガニ、トサカキンボ、チヂブ属
低潮帯	9種: カサガイ科、イボニシ、マガキ、ヤドカリ類、カサガイガニ、シロボヤ、トサカキンボ、シマハゼ類、チヂブ属



(2) 現地視察会での意見への対応

- ◎ 施工後、被覆石が抜け落ち斜面に穴が空き危険である
- ⇒ 中詰め石などを被覆石の間に充填することで抜け落ちに対応する。

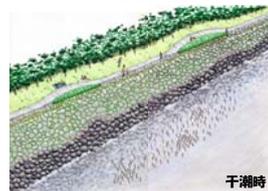


- ◎ 施工後、潮間帯にカキ、フジツボ、藻類等が着生し、歩行等に危険である
- ⇒ 利用区域と非利用区域とに区分し、利用区域ではバリエーションで安全確保する

= 人の利用を許容する範囲のイメージ図 =



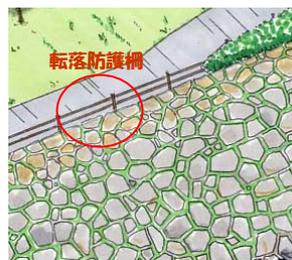
= 人の利用を許容しない範囲のイメージ図 =



- ◎ 被覆石に花崗岩以外の柔らかなイメージの石が使えないか
- ⇒ 砂岩(鋸南産)の大きな物は採算性の問題から生産していないため、設計上の必要重量の確保が課題である



- ◎ 転落に対する対処が必要ではないか
- ⇒ 転落防護柵の設置、レキで浅場をつくるなどして対応する

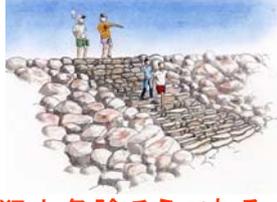


(3) 景観アンケート調査での低い評価への対応

◎ 全体的に人工的で単調な印象である

⇒ バリエーションで形状に変化をもたせる

例1) 部分的な自然石階段によるアクセス部の形成

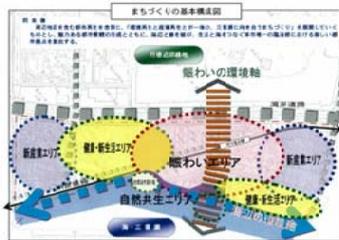


例2) 小島による利用・環境学習（観察等）の場の形成



◎ 防犯上危険そうである

⇒ 防犯灯の設定などについて街づくり計画と調整する

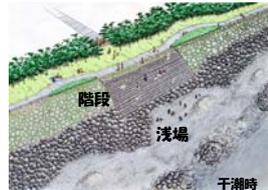


4

◎ 利用上危険そうである

⇒ 利用区域と非利用区域とに区分し、利用区域ではバリエーションで安全確保する

= 人の利用を許容する範囲のイメージ図 =



= 人の利用を許容しない範囲のイメージ図 =



⇒ 転落防護柵の設置、レキで浅場をつくるなどして対応する



5

**(4) 三番瀬評価委員会護岸小委員会における意見等
H20年度モニタリング計画について**

- 現段階での「ハビタットとしての機能を発揮しつつある」という評価は妥当であると考えられるが、5～10年経って生物が安定的に棲むようになった時点でのハビタットの機能について、ハビタットの長期的な変化・変遷と併せて十分把握出来る様な手法でモニタリングを継続して欲しい。

目標達成基準1	マガキを主体とした潮間帯生物群集が、改修後の石積護岸の潮間帯に定着し、カキ殻の間隙が他の生物の隠れ場、産卵場などに利用され潮間帯のハビタットとして機能すること。
---------	--

生物が安定的に棲むようになった時点での、ハビタットの機能の把握手法について検討しておく必要がある。

長期的な変化・変遷が把握できるような手法を検討し、モニタリングを継続。

- ◎ 濡筋部の地形変化は継続して監視を続け、調査範囲を沖合い方向へ広げる検討も必要ではないか。
- ◎ 工事延長の増大に伴い、少し沖合いまで地形変化をモニターする測線を、1ないし2ライン設定した方が良い。
- ◎ 工事区間の延伸に伴い、対照測線を工事区域外に設ける必要がある。



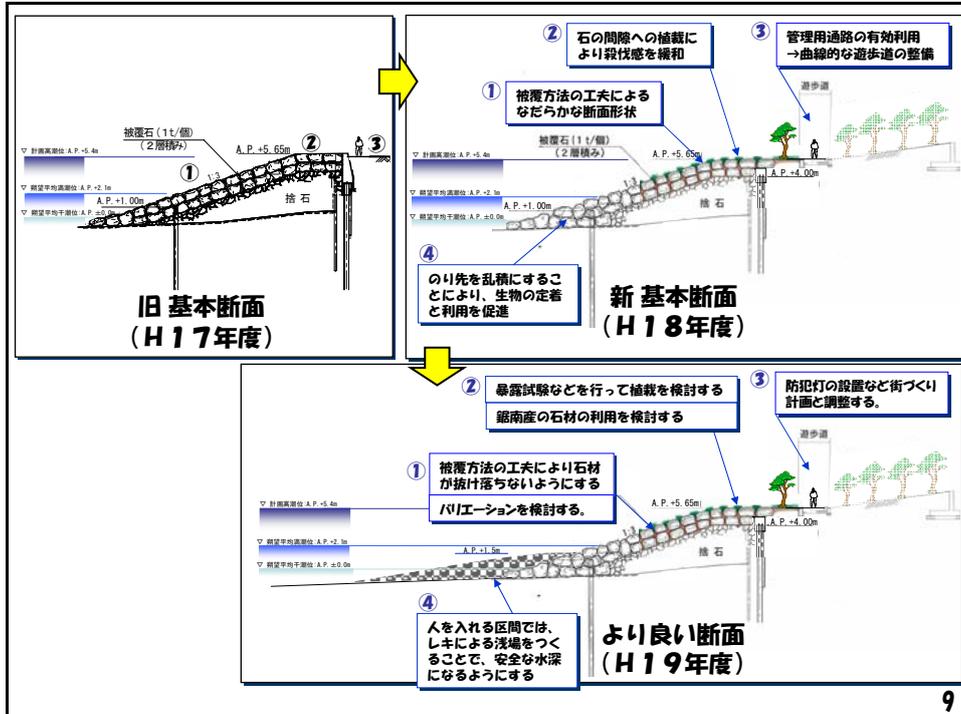
(5) より良い断面の提案

項目	H17年度の取り組み	H18年度の取り組み
① 断面形状	3割の緩傾斜断面	① 被覆方法を工夫し再張った断面形状を造らない(ハッキリとした護岸法線(稜線)を造らない)。
② 景観	自然石の利用	② 石の隙間に植栽をほどこし、殺伐感を緩和する。
③ 管理用通路	一般的な管理用通路	③ 管理用通路を有効利用し、曲線的な遊歩道(フロムナード)を造る。
④ その他	特になし	④ 事例等を参考にしてよりよい工夫を行うものとし、のり先部分は乱積みとして生き物に配慮していく。



項目	求められる対応	H19年度の取り組み
① 断面形状	○施工後、被覆石が抜け落ち斜面に穴が空き危険 ○全体的に人工的で単調な印象	① 被覆石が抜け落ちない構造とする。 ○パリエーションを検討する。
② 景観	○全体的に人工的で単調な印象 ○被覆石に花崗岩以外の柔らかなイメージの石が使えないか	② 植栽の暴露試験を行うなどして種類を検討する。 ○パリエーションを検討する。 ○天端部分への鋸南産の石の利用を検討する。
③ 管理用通路	○防犯上危険そうである	③ 防犯灯の設置など街づくり計画と調整する
④ その他	○施工後、潮間帯にカキ、フジツボ、藻類等が着生し、歩行等に危険である ○利用上危険そうである	④ 危険防止対策を検討する。 (利用区域と非利用区域の区域分け、転落防護柵、しきによる浅場づくり:安全な足もとづくり)

8



9